

2014 年 1 月から12月までに当院で転移性脊椎腫瘍に対して
診断および加療を受けられた患者さんへのお知らせ

課題名：転移性脊椎腫瘍に対するリエゾン治療の効果、後ろ向き調査

川崎医科大学附属病院では 2014 年 1 月から整形外科をナビゲーターとして、臨床腫瘍科、泌尿器科、乳腺甲状腺外科、呼吸器外科、消化器外科、放射線科（画像診断）、放射線科（治療）、看護部、患者診療支援センターでワーキンググループを作成し、転移性脊椎症に対して全国に先駆けてリエゾン治療を開始しました。各部門が連携をとることにより診療科間や職種間の垣根を越えて、各種専門家によるチーム医療が可能となり、①転移性脊椎腫瘍を早期発見し、②脊椎支持機構の破綻前ならびに神経症状出現前に適切な治療を効率的に行うことで、③転移性脊椎腫瘍患者さんの QOL : quality of life（生活の質）を維持することが出来ると考えています。

リエゾン治療を開始して間もないですが、その有効性について調査したいと考えています。対象は 2014 年 1 月から 12 月までに当院で転移性脊椎腫瘍に対して手術を受けた方です。患者さんの経過を検討するための後方視的調査研究を実施します。具体的には診療記録から情報を抽出して評価します。調査実施期間は倫理委員会承認日より 1 年間の予定です。

治療介入を伴わない既存資料のみを用いた後方視的研究であるため、新たに人体試料は採取しません。個人が直接同定されうる情報は収集いたしません。

研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態といいます。この研究を実施する関係者には以下の如く奨学寄付金の受け入れがありますが、利益相反委員会にこの内容を申告し、適正に管理されています。なお、下記企業は、本研究課題には直接関係のない企業です。この研究は後ろ向き研究であり、費用は発生しないと考えますが、費用が必要な場合は研究者：中西一夫の教員研究費を用いて行う研究であり、研究結果に影響を及ぼしかねない資金の受け入れおよび使用はないため、深刻な利益相反の状態にはなっていません。

脊椎・災害整形外科

科研製薬（株）、大日本住友製薬（株）、アステラス製薬（株）、武田薬品工業（株）
旭化成ファーマ（株）、第一三共（株）、帝人ファーマ（株）

泌尿器科学

アストラゼネカ（株）、キッセイ薬品工業（株）、アステラス製薬（株）、日本新薬（株）
ファイザー（株）、グラクソ・スミスクライン（株）、旭化成ファーマ（株）、武田薬品工業（株）
小野薬品工業（株）、大鵬薬品工業（株）

乳腺甲状腺外科学

武田薬品工業（株）、大鵬薬品工業（株）、エーザイ（株）、グラクソ・スミスクライン（株）
中外製薬（株）、アストラゼネカ（株）

呼吸器外科学

日本イーライリリー（株）、協和醗酵キリン（株）、CSL ベーリング（株）

研究に関してご質問のある方や研究への参加を希望されない方は、下記までご一報下さいますようお願い致します。

問い合わせ先：川崎医科大学脊椎・災害整形外科 講師 大成和寛
〒701-0192 倉敷市松島 577 TEL：086-462-1111 FAX：086-464-1175
電子メール：seikei@med.kawasaki-m.ac.jp